

めぐみイエス・キリスト教会

2021年2月21日(日)第三主日礼拝
週報「通算第545号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌467「世の終わりのラッパ」 p. 752

【交読文】 No.4 詩篇第18篇 p. 881

【賛美Ⅱ】 新聖歌364「わが主イエスよ」 p. 584

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美20「キリスト讃歌」

【聖書朗読】 使徒の働き8章9節～17節

【礼拝説教】 《魔術師シモン》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所 【使徒の働き8章9節～17節】

8:9 ところで、以前からその町にはシモンという名の人があった。彼は魔術を行ってサマリアの人々を驚かせ、自分は偉大な者だと話していた。

8:10 小さい者から大きい者まで、すべての人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、『大能』と呼ばれる、神の力だ」と言っていた。

8:11 人々が彼に関心を抱いていたのは、長い間その魔術に驚かされていたからであった。

8:12 しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。

8:13 シモン自身も信じてバプテスマを受けると、いつもピリポにつき従って、しるしと大いなる奇跡が行われるのを見ては驚いていた。

8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。

8:15 二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。

8:16 彼らは主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだ、彼らのうちのだれにも下っていなかったからであった。

8:17 そこで二人が彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

●ポイント1. 魔術師シモンの行なっていたわざとは？

※出エジプト記7章10節～11節「パロへの三つのしるし」(旧約p.109下段)

7:10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。

7:11 そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。

●ポイント2. なぜペテロとヨハネが遣わされたのか？

※ガリラヤ人への手紙2章7節～8節「教会の柱として」(新約p.376上段)

2:8 ペテロに働きかけて、割礼を受けている者への使徒とされた方が、私にも働きかけて、異邦人への使徒としてくださったからでした。

2:9 そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケファとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し出しました。それは、私たちが異邦人のところに行き、彼らが割礼を受けている人々のところに行くためでした。

●ポイント3. 主の名によるバプテスマと聖霊のバプテスマ

※第 I コリント12章3節・28節「イエスは主・教会の秩序」(新約p.344上段)

12:3 ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。

12:28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えて下さいました。

※ヤコブの手紙3章13節～18節「上からの知恵を求め」(新約p.462上段)

◎先週のメッセージの概要【伝道者ピリポ】

《サウロによって、エルサレム市内における大きな迫害が起こりました。その為、ペンテコステの時に救われた三千人のディアスポラ(ギリシャ語を読み書き話すユダヤ人)の兄弟たちは、自分の国に戻って行きました。

しかし、ヘブル語を話すユダヤ人たちは、ユダヤとサマリア地方に散らされて行ったのです。彼らは、行く先々で福音を宣べ伝えたのです。

その中において、ピリポが登場します。このピリポは十二使徒の一人ではなく、エルサレム教会の毎日の配給を担当する七人の執事の一人として選ばれた者のことです。七人の中で、筆頭の執事であった、信仰と聖霊に満ちた人ステパノは、最初の殉教者となりました。

ピリポが、かつて北王国イスラエルの首都であり、ヘロデによって再建されたサマリアの町に、遣わされた理由は書かれてはいませんが、御霊がピリポを導いたと言うことが真実ではないでしょうか。のちにピリポはカイザリヤに定住し、家族と共にカイザリヤの教会の責任者となります。

さて、ユダヤ人はサマリア人とは、付き合うことをしませんでした。しかし、公生涯の初期の頃、主イエスがエルサレムからガリラヤに戻るさいに、一度だけサマリア経由の道を通られたことがあります。その時、ヤコブの井戸に水を汲みに来た、一人のサマリアの女に声をかけたのです。

主イエスとその女が会話を続けて行く中で、彼女の霊的な目が開かれて行きます。すると彼女は、「来て、見て下さい。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」と叫びながら、サマリアのスカルの町を駆け巡ったのです。そしてその町にリバイバルが起こされたのです。しかしこののち、再びだれ一人として、サマリアに伝道に赴く者は、起こされませんでした。そんな折りに、ピリポが遣わされて行きます。ピリポによって、悪霊追い出しと、癒しの奇跡が行なわれ、その町に大きな喜びが訪れたのです。このように神様は、時として、一人の人物を用いられ、大きなことを成し遂げられるのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年2月28日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、2月24日(水)各家庭において行ないます。